

「法の支配」と国際機構：その過去、現在、未来
 (『国連研究』第14号)

目次

| | |
|---|-----|
| 序 | II |
| I 特集テーマ「『法の支配』と国際機構：その過去、現在、未来」 | |
| 1 「嵐の前の静けさ」—沈みゆくイギリス帝国と国連：1957-1959 | 21 |
| 2 難民と国内避難民の保護をめぐる潮流—法の支配の観点から | 41 |
| 3 国連警察の役割と「法の支配」—平和維持的任務から平和構築的任務への連続性 | 71 |
| 4 ICJ の選択条項制度の現状と展望—国際社会における「法の支配」の観点から | 95 |
| 5 「国際機構法 (Law of International Organizations)」と「国際組織法 (International Institutional Law)」—国際社会における法の支配と国際機構内部における法の支配を峻別する意義 | 119 |
| II 政策レビュー | |
| 6 南スーダンにおける武装解除・動員解除・社会復帰 (DDR) 事業の進展と課題 | 149 |
| 7 S5 安保理作業方法改善決議案にみる国連安保理改革の政治力学 | 171 |

Ⅲ 書評論文

- 8 核兵器のない世界を目指す国際政治と国際法の接近…広瀬 訓 203

Ⅳ 書評

- 9 蓮生郁代著『国連行政とアカウンタビリティの概念—国連再生への道標』……………久山純弘 219
- 10 望月康恵著『移行期正義—国際社会における正義の追及』……………清水奈名子 227
- 11 イアン・ジョンストン著『審議の力—国際法、国際政治、国際機構』……………松隈 潤 233

Ⅴ 日本国際連合学会から

- 1 東アジア国連システム・セミナーについて—とくに第12回北京大会を中心に……………横田洋三 241
- 2 The Academic Council on the United Nations System (ACUNS): Fostering Excellence and Innovation in Scholarship and Practice……………Alistair D. Edgar 245
- 3 国連システム学術評議会 (ACUNS) 第25回年次研究大会に参加して……………勝間 靖 251
- 4 規約と役員名簿…………… 255

Ⅵ 英文要約 …………… 259

編集後記 …………… 277

執筆者紹介 …………… 279